

ズバリ!

レジデントノート別冊

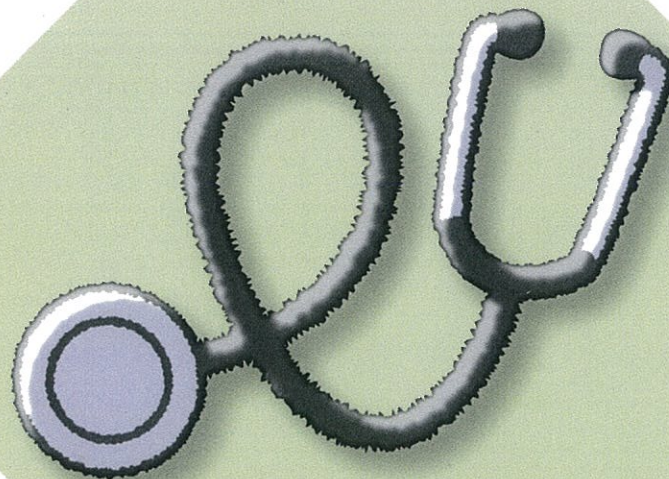
日常診療の
基本講座

1

本当に知りたかった 日常診療のコツ

医療面接・診察・検査のあれこれを教えます

編集 奈良信雄



 羊土社
YODOSHA

「レジデントノート」で
大好評の連載を単行本化!



その10 患者さんの問題点を見極めよう！

～Gから始まるABC！

濱田久之

- 臨床現場における問題は複雑であるが言語化することからすべては始まる。
- テーマを決めて問題点を議論することが重要である。
- 患者さんの問題点は複雑ではあるが、付箋を使用し、短時間に整理する方法がある。

● はじめに

“患者さんの問題点を的確にあげなさい！” “君が何を言いたいかわからない。まずは、プロブレムリスト作って、持ってきてなさい！” と、カンファレンス、回診で怒られるあなた、 “そのことは、今重要じゃないでしょう。ところで、**についてチェックしてみた？” “あっ…すいません、全然考えていませんでした” と、いつも“うっかり”のあなた、がっかりすることはありません！ 問題点の整理のしかたを工夫すれば大丈夫。

本項では患者さんの問題点をどのように抽出し、整理していくのかについて解説します。

● 問題点の問題点



日常の診療で、問題点を抽出したり、プロブレムリストを作ったりする作業は、医師であり続けるためには、これから一生行わなければなりません。それをうまくできるかどうかは、仕事の能率、治療の選択・結果やあなたの評価にかかわってくる大事な作業です。

そして、何よりも、現在の診療方式は、POS (problem oriented system) に代表されるように“問題点をあげることができる”ということが前提となっています。EBM (evidence based medicine) にしても同様で、最初のステップは目の前の患者さんがもつ問題の定型化です。教育ではPBL (problem-based learning) が重要視されています。つまり、患者さんの問題点を見つけないと現代医療のすべてが始まらないのです。

しかし、自分があげた問題点が、本当に今の病態の問題点であるのか？ 患者さんが問題とする点と患者さんの病態の問題点が一致するのか？ 指導医間でも問題点のとらえ方に相違がある？ 問題点の抽出のしかたなんて人それぞれ？ そもそも、問題点の定義って何よ？ …など疑問に感じる方も多いでしょう。

問題点の問題点は、尽きませんが、ここでは整理に役立つ1つの考え方を紹介します。